

2023年5月12日 セミナー

ゆっくりを軸とした地区づくりのための交通・道路・都市のあり方を考える

～フランス調査結果報告を通じて～

宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利です。

今日は、こうして見渡しましても、会場にほぼ満席の多くの皆様にご来場いただいております。オンラインでのご視聴の申込みをいただいた皆様と合計しますと約1200名に達するというので、大変ありがたく感謝申し上げます。

当研究所では、昨年、「人と多様なモビリティが共生する安全で心ときめくまちづくり調査」と題する調査研究を行ってまいりました。これは、昨年新たに創設された日本財団グローバル基金を活用した調査研究であります。この基金は、欧州をはじめグローバルな交通運輸及び観光に関する最新の情報や知見を収集・分析し、その成果を当研究所が実施する各種の研究調査において、課題解決のための提言にしっかりと反映させることを目的に、設置されたものです。日頃より当研究所の活動に対して手厚いご支援をいただいている日本財団に、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

さて、これからご報告いたします調査研究については、本日ご登壇いただく石田東生筑波大学名誉教授を座長として、アドバイザー会議を開催し、検討を進めてまいりました。昨年9月には調査団をフランスに派遣し、フランスにおける低速交通まちづくりの現地調査を詳細に行ってきたところであります。

本日のセミナーは、この現地調査を基に、「ゆっくり」を軸とした地区づくりのための交通・道路・都市のあり方について、その課題と可能性を多面的に考察するという目的で開催するものです。

私自身、出張や旅行で海外のさまざまな都市を訪れる機会が多いわけですが、そのたびに、それぞれの都市の姿や佇まいに新鮮な感動を覚え、時間が許す限り街中を巡ってみたいと思っています。とりわけ欧州の都市においては、人をそのような気にさせる、多様な工夫や知恵が施されていることを幾度も目にしてまいりました。その背景には、それぞれの都市に固有の歴史や特色を生かしつつ、そこに住み、あるいはそこを訪れる人々の Quality of Life を高めるためのまちづくり、公共交通、モビリティの実現を目指す明確な意識と政策の実行があると常々感じております。我が国でも、今こそ、このような意識の転換と新たな実践が必要ではないかと、このように私は思っております。

本日はまず、この調査結果について当研究所の矢内研究員と三重野研究員から報告を行います。次に、アドバイザー会議の委員でもある筑波大学システム情報系社会工学域 教授の谷口守先生より基調講演を行っていただいた後、この分野の有識者の皆様をお招きして、石田先生をモデレーターにパネルディスカッションを行います。

パネルディスカッションは、石田先生の他に、今回のフランス現地調査のコーディネーターを引き受けていただいた FUJII Interculturel社代表 ヴァンソン藤井由実さま、現地調査に同行していただいた一般財団法人計量計画研究所 業務執行理事 牧村和彦さま、そして公益財団法人自転車駐車場整備センター 自転車総合研究所所長 古倉宗治さまにご登壇いただきます。なお、古倉さんは私の大学の

同級生で、それ以来の親しい友人であります。1974年に当時の建設省に入省され、私は同じ年に当時の運輸省に入省しました。その後国土交通省で一緒になりまして、古倉さんは自転車まちづくりあるいは都市計画の分野で研究を続けられ、現在この分野の第一人者として活躍しておられます。

本日の議論を通じて、我が国における「ゆっくり」を軸とした地区づくりに向けた課題と可能性について、最新の情報・知見や問題意識の共有を図り、今後どのような取組や施策が必要となるかについて、皆様と共に考察を深めてまいりたいと思います。

なお、最後になりましたが、本日のセミナーは、一般財団法人日本みち研究所及び公益社団法人日本交通計画協会との共同開催です。関係の皆様には大変ご協力を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本日のセミナーが、ご参加いただきました多くの皆様にとりまして、また関係機関、関係業界の皆様にとりまして、真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、冒頭のご挨拶といたします。

本日はどうもありがとうございます。

(以上)